

連載企画

部長 INTERVIEW

多摩テクノプラザ

vol. 5

多摩のものづくり産業にさらなる イノベーションを 起こす



事業化支援本部多摩テクノプラザ所長
ひぐち あきひさ
樋口 明久

多摩の研究開発型中小企業を支える拠点として、「産業サポートスクエア TAMA」内に2010年に開設した多摩テクノプラザ。その特長や注力する取り組みなどについて、多摩テクノプラザ所長に聞きました。

EMC サイトと複合素材開発サイト による製品開発支援

多摩テクノプラザは、多摩地区を中心とした研究開発型ものづくり企業の支援を行っています。電子・機械グループ、複合素材開発セクターの二つの研究部門と総合支援課で構成され、施設は基盤機器を整備した本館、電磁環境試験関連の各種規格に適合したEMCサイト、高強度繊維・繊維強化材料の研究開発を支援する複合素材開発サイトからなります。電子・機械グループが所管するEMCサイトは10 m法電波暗室を備えており、民生機器に加え、6月から車載機器のEMC試験*1を開始しました。多摩地区は輸送用機器や電子機器の出荷量が多いので、安全運転支援・自動運転システムなど次世代モビリティ関連部品の信頼性や安全性に対する要望にも応えていきます。複合素材開発サイトは、複合素材開発セクターが所管。機能性繊維の糸加工から、織物や編物の試作、樹脂含浸シートのカット、表面処理、CFRP（炭素繊維強化プラスチック）成形 評価まで、各種複合材料のものづくりを総合的に支援する、全国の公設試験研究機関でも数少ない施設です。

研究開発では、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会を契機に、障害のある子どもが運動を楽しめ

る「子ども用歩行器」の試作開発を推進。2019年度末の商品化に向け、共同研究・開発を行う福祉機器製造・販売業界の企業を募集しています。より良い製品を多くの子どもたちに届けたいと思っています。企業の皆さまのご連絡をお待ちしています。

中小企業に利益をもたらす 研究者集団を目指して

多摩テクノプラザでは二つのサイトを活用して、これまで設計から試作、評価まで一貫した製品開発支援を行ってきましたが、さらに開発品に関わる社員教育を加えた包括的な支援に力を入れていきます。人材育成は、業績を伸ばす重要な鍵です。現場に立つ社員が、製品化の流れを学び、自社製品への理解を深めることで、新たな製品開発や販路拡大につながると考えます。実際、お客さまから好評を得ています。

私たちが目指しているのは「技術の力で中小企業を稼がせる研究者集団」。職員一人ひとりが技術を高め、企業に利益をもたらすことを意識しています。そして、企業や社会に貢献できることをやりがいや喜びにつなげています。これからも、より有益な支援を目指し、技術の向上に努め、多摩からイノベーションを起こしていきたいと思ひます。

*1 EMC 試験

電子機器が発する電磁妨害波が他の通信を妨害しないか、電子機器が電磁妨害を受けても誤作動しないかなどを評価する試験のこと。

車載機器用 EMC 試験の開始

試験内容		対応国際規格
伝導過渡イミュニティ試験		ISO 7637-2
①	静電気放電イミュニティ試験	ISO 10605
②	放射エミッション試験	CISPR 25
	伝導エミッション試験	
②	アンテナ照射イミュニティ試験	ISO 11452-2
	BCIイミュニティ試験	ISO 11452-4

① 2019年10月以降、② 2019年12月以降に試験開始予定



CFRP 製ボルト・ナット

軽量化と優れた強度を実現。
共同開発企業：ハードロック工業株式会社



子ども用歩行器

方向転換のしやすさに特化した後方支持型歩行器。